

【施策7】 国際化の進展に対応できる人づくりを進めます

(施策の現状)

グローバル化¹³の一層の進展により国際競争が加速する一方、異なる文化との共存と国際社会の発展に向けた国際協力が求められる中、地球的視野を持って行動し、国際社会を主体的に生きる人間を育成することが大切です。

本県は、これまで、野口英世博士⁵²や朝河貫一博士⁵³のように、世界で活躍する先人を輩出してきました。

現在県内に居住する外国人の数は増加傾向にあり、異なる言葉や文化を持つ人々と地域に昔から暮らしている人々が、共に学び、働き、助け合い、市民レベルでの交流の機会も増えています。また、県内の大学、企業等においては、海外の大学や企業等との交流が増加しています。

(基本的方向性)

- ・ 異なる文化的背景を持つ人々との相互理解を深め、国際社会において主体的に行動できる人づくりを進めるため、国際理解教育、我が国と郷土の伝統や文化等に関する教育を進めるとともに、児童生徒のコミュニケーション能力を高めるための語学指導等の充実を図ります。
- ・ 県内に居住する外国人が増加する中、外国人児童生徒等が学校生活に早期に適応できるよう、日本語指導等の支援体制の整備を進めます。
- ・ 双葉地区教育構想⁵⁴や大学とも連携した特色ある中高一貫教育⁵⁵により、国際人として社会をリードする人づくりを推進します。
- ・ 公立大学において、国際社会で活躍できる人づくりに努めます。

⁹ グローバル化…… 6 ページ参照。

⁵² 野口英世博士……明治9年(1876)～昭和3年(1928)。福島県出身の細菌学者。

大正7(1918)年南米エクアドルで黄熱病病原体を発見したと発表、それを証明するために昭和3(1928)年アフリカのアクラに出張し、現地で黄熱病にかかって死去。科学のため、人類のために殉職したとして当時世界的に報じられた。

⁵³ 朝河貫一博士……明治6年(1873)～昭和23年(1948)。福島県出身の歴史学者。

東京専門学校(現早大)卒業後、アメリカのユール大大学院に学び、昭和12年同大教授。日露戦争の原因を説明した「日露衝突」、日本の封建制度をはじめで紹介した「The Documents of Iriki(入来文書)」などを発表。

⁵⁴ 双葉地区教育構想……富岡高等学校と4公立中学校の連携型中高一貫教育を核とし、(財)日本サッカー協会、(独)国際協力機構、大学等と連携しながら世界を舞台に活躍できる人づくりを目指して平成18年4月に開始した、本県独自の教育構想。

⁵⁵ 中高一貫教育……中学校と高等学校を接続し、6年間の計画的、継続的な教育課程及び学習環境のもとで一貫した教育を行うもの。6年制の一つの学校として教育を行う中等教育学校、設置者が同一である中学校と高等学校で6年間を見通した教育を行う併設型の中学校・高等学校、既存の中学校と高等学校が教員・生徒交流等の連携を深める連携型の中学校・高等学校の3つの実施形態がある。

【今後の取組み】

□ 国際理解教育の推進

総合的な学習の時間等において、外国語指導助手⁵⁶の母国の文化や習慣を学ぶ機会を設けるとともに、独立行政法人国際協力機構（JICA）⁵⁷等関係機関との連携、国際協力に携わった方々や地域に在住する外国人、教育旅行で本県を訪れる海外の学校との交流活動を実施することなどにより、児童生徒の異文化理解を深め、国際理解教育を推進します。

□ 我が国と郷土の伝統や文化等に関する教育の推進

さまざまな教科等において我が国と郷土の伝統や文化に触れさせるとともに、これらに関する資料を充実させ、学校での活用を促すことなどにより、伝統や文化についての理解を深めさせます。

□ 外国語による実践的なコミュニケーション能力の育成

外国語指導助手⁵⁶を活用するなど、小学校を含め発達段階に応じて外国語による実践的なコミュニケーション能力の育成を図ります。

□ 外国人児童生徒等への支援体制の整備

外国人児童生徒等が学校生活に早期に適応できるよう、関係機関と連携しながら各学校に必要な資料や情報を提供するとともに、学校の実態に応じて必要な支援教員を配置することなどにより、外国人児童生徒等への支援体制の整備を進めます。

□ 特色ある中高一貫教育⁵⁵による国際人の育成

併設型中高一貫教育⁵⁵校である会津学鳳中学校・高等学校において、会津大学との連携のもと、国際化社会、情報化社会のリーダーとして活躍できる人づくりを進めます。

また、関係機関と連携し、双葉地区において連携型中高一貫教育⁵⁵を展開し、スポーツにおいて世界で活躍できるスペシャリストの育成に取り組むとともに、語学や福祉・健康の分野においても国際的な感覚を身につけた、豊かな人間性と確かな学力を有する人づくりを推進します。

⁵⁵ 中高一貫教育……40頁参照。

⁵⁶ 外国語指導助手……日本人英語教員と協力し、ティーム・ティーチング（協同授業）等を行う外国人の助手。ALT（Assistant Language Teacherの略）とも言われる。

⁵⁷ 独立行政法人国際協力機構（JICA）……青年海外協力隊派遣など、ODA（政府開発援助）の技術協力、有償・無償資金協力、ボランティア派遣、国際緊急援助等を実施するための独立行政法人。二本松市に訓練所がある。

- 公立大学法人¹⁶への支援を通じた国際交流の推進
公立大学法人¹⁶への支援を通して、国際会議の開催や共同研究、海外留学生の受入れなど、外国の大学との交流推進に努めます。

[施策7 指標]

指標名	現況値	目標値	備考
英検 ⁵⁸ 準2級以上の取得率(県立高等学校第3学年)	H20年度 6.0%	H26年度 10.0%以上	
英語スキットコンテスト ⁵⁹ 参加チーム数(公私立中・高等学校)	H21年度 75チーム	H26年度 増加をめざす	モニタリング指標
会津大学における国際学術交流協定 ⁶⁰ 締結校数	H21年度 延べ47校	H26年度 増加をめざす	モニタリング指標

¹⁶ 公立大学法人……15ページ参照。

⁵⁸ 英検……財団法人日本英語検定協会主催の「実用英語技能検定」。「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能について測定するテスト。

⁵⁹ 英語スキットコンテスト……生徒が3人一組になって英語によるスキット(寸劇)の台本を作成し、それを実際に演じて、作品の内容と表現力(英語力、演技力)を競うコンテスト。

⁶⁰ 国際学術交流協定……海外の大学との協力関係を積極的に構築をするため、研究者・学生の相互交流、国際共同研究の推進など、学術の交流に関して結ばれる協定。